障がい等地域支援ブロック会議報告（平成29年6月～平成30年2月）

資料4

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例タイトル	検討項目	意見	課題
6	21	24	うべくるみ園	親の高齢化、親亡き後を見据えた支援について	保護者は将来について、「何かあった時は短期入所や日中一時を利用したい」と言われ、先のことは考えられていない様子。両親も高齢の為、日中一時、短期入所などの体験をしながら入所施設、他事業所などの利用を考えていかなければならないと思うが、その為に本人、保護者の気持ちをどのように向けていけばよいか。	・少しずつ情報提供し、将来どうするかを相談員が一緒に考えるという姿勢を見せる。 ・両親も介護保険の年代であることから、両親の健康問題や介護保険情報の提供からアプローチするとよい。 ・弟の協力は今後必要になってくる。後見人制度の紹介とともに、弟との関係修復について検討する必要がある。 ・成年後見制度や、短期入所、施設入所について具体的に情報提供する。	・主治医と相談員が連携し、親亡き後について、両親が考え準備していけるようどう支援すべきか。
7	19	25	ぴあ南風	中途障害の方の65歳からの働き方について	65歳を過ぎると新たな障害福祉サービス事業所の利用は制度上できないが、ご本人がまだ働きたいと希望する場合、適切な場所がないか検討してほしい。	・支援者から一方的に就労の窓口を提案するのではなく、本人の能力、特性に合わせ、どういった仕事が向いているのか、その仕事をするためにどういった行動が必要かを一緒に検討し、本人が納得できるかたちで進める。（ハローワーク、シルバー人材センターなど） ・孤立を防ぐために、人との関わり、地域との交流、居場所づくりの提案をする。現状で利用の可能性がある制度（総合事業や介護保険）について情報提供。 ・安否確認等、見守り体制を整備する。1回/月の見守りでいいのか、相談員がいつまで受け持つのかなど。	65歳以上の働きたい人をどう就労支援すべきか。
8	17	18	高嶺病院	重複障害のある方の自己実現について	①今後の支援者としてのかかわり ②福祉サービス利用開始のタイミング ③今後の住居の問題	①福祉サービスの利用中であり、担当の相談支援専門員との連携。新たなサービス（就労支援）導入というよりは、現状維持サポートが良いのではないか。 ②アセスメントの上、サービスが無くても生活上大丈夫なら、本人の希望に沿ってすすめる方がよい。今回のケースは、本人からヘルパー利用を言い出すまで、待ったのはよかった。 ③将来的にアパート全体が取り壊しで、ほかの断酒会の仲間も、家を移らないといけない状況あり。アパートに住めなくなったと想定して、皆で離れてもどうつながっていくかミーティングをしてはどうか。 シェアハウス。空き家を借りて、仲間と一緒に住めたらよい。通院病院の敷地内に、グループホームがあるとよい。	精神科通院中の方を地域でどう受けとめていくか。

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例タイトル	検討項目	意見	課題
9	23	25	ぷりずむ	発達障害のある児と保護者への子育てサポート・家族支援について	①親子でいる時間が長ければ長いほど、手をあげてしまう可能性が出てくると思われる。母子分離ですべて解しないが、他にどのような方法でこの親子の安全を守ることができるだろうか。 ②ご両親は一生懸命でも、子育てがうまく行かない場合に子どもの怪我に繋がってしまうこともあると考えられる。他にどのような子育て支援があれば、この親子をサポートしていけるだろうか。	・そらいろやまっぷなど発達障害専門機関への相談 ・親の会や保健師への相談 ・将来的な入所に向けた支援 ・実費ヘルパーによる家事支援 ・母自身のことを、相談できる存在が必要 ・母の家事支援や服薬の支援（母自身が受給者証をとれるか） ・日中一時支援や短期入所の利用 ・発達障害は身近にいなければなかなか障害理解をすることが難しく、親にとっては、今現在の困りごとだけでなく、将来どうなるのかという不安も強い。 ・発達障害の子が成長したらこのようになる、という事例や親の会から経験などを話し伝えられると良い。	・支援をする際には、今現在の困りごとにばかり目がいきがちだが、将来を見据えた長い視点でのかかわりをどう考えていくか。
10	18	20	神原苑	行動障害のある方への支援について	①　自宅及びデイサービス事業所にて情緒不安定になることが多く、自傷、自慰、他傷行為に繋がることがある。本人の情緒が安定し過ごせるにはどのような支援をするべきか。 ②　コミュニケーションが難しいため、本人が不安定にならないように環境調整する方法（アセスメントの方法）は、どんなことが考えられるか。	・そらいろなどの専門機関の別の視点・アドバイスをもらう ・具体的な方法は難しいので、精神科医師にも相談 ・泣かずに落ち着いて過ごせた日に何が良かったのか振り返る ・ショートステイ、他通所事業所の様子の情報共有 ・訪問看護利用。服薬を望まない家族→医療との距離あるため、訪問看護からの情報が医師へつながる。 ・本日の事例シートを主治医に見てもらう→主治医に情報届く。家族と相談しやすい	専門機関との連携のタイミングや情報や課題を医療機関とどう共有していくか。
11	17	20	山口県立こころの医療センター	退院後の支援に対して拒否が強い事例について	①どういった支援体制とすることが良いか ②本人との関係を構築するためにどのような手段が有効か	①・（本人が望まない）実家、地域へ退院することで病状悪化の不安あり。宿泊型自立訓練を経て、居住先について検討しては。 ・服薬管理や見守り支援が必要であれば、退院の条件としてデイケア、訪問看護の利用を提案してみては。 ・実家で生活していたころの様子等の確認や地域生活の情報収集を図るため、地域の役員に退院前カンファレンス等に参加を依頼したり、地域住民への事前周知を検討してみては。 ②・入院中の様子から、圏域相談と連携したり、地域移行支援を利用することで、計画相談員との関係性の構築を図ってみては。 ・作業療法の中で、本人に主体的に取り組んでもらい、一人でできないことの実態を多く経験してもらう。 ・関係の築けている担当ナースを中心に対応方法を検討。	退院から地域移行に向けた本人との現状共有。実際のできること・できないことの認識のギャップをどう埋めていくか。

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例タイトル	検討項目	意見	課題
12	14	16	障害福祉課	父の過干渉から脱出し、一人暮らしを望む30代女性への自立支援について	1．親の過保護過干渉を、親からの支配監視下であり苦痛と考えている本人に対して、今後の自立に向けた目標を一緒に設定するにあたり留意する点は何か？ 2．将来的に独り暮らしを考えた際、住まいを探すことや経済面を支えるための手立てにはどんなものがあるか？	・父の理解が不可欠なため、父に対して納得できる説明、説得を時間をかけて行う。父の気持ちや考えを話し合えるキーパソンも必要。 ・福祉サービスに限らず、父子分離できる機会を作り、精神安定を図る。 ・精神科主治医へもアドバイスを求める。違った視点からのアドバイスが期待できる。 ・父が本人の病気をどこまで理解しているのか確認する。 ・自己肯定感を得られる体験を増やし、自立に向けて自信をつけてもらう。	・医療的なかかわりは不可欠だが、支援体制を構築する際に、主治医へどう関与を依頼するか。 ・福祉サービスに限らず、当事者の自立に向けて活用できるサービス、制度をどう把握していくか。
1			開催なし				
2	22	26	緑豊舎	発達障害・精神障害があり、コミュニケーションがとりづらい人への就労支援	退院後、どのようにかかわっていったらよいのか	・本人が周囲の環境にがんばって合わせようとしてきた経過がある。 ・本人が退院したいと希望されるか、どのような状態での退院になるか。 ・就労については、状態悪化の引き金にならないよう、精神科主治医の許可も必要。 ・退院先も含めて、関係者で状態の共有・目標の共有が必要。 ・コミュニケーションが取りづらい中でも、この人のいうことなら受け入れやすいなど信頼を置ける人の存在を確認。	就労支援の評価の過程で、生活リズムやコミュニケーションでつまづくケースをどう支援していくか。